

壁厚み設定の設定方法

文書管理番号：1264-01

Q. 質問

壁の厚みを設定したい。

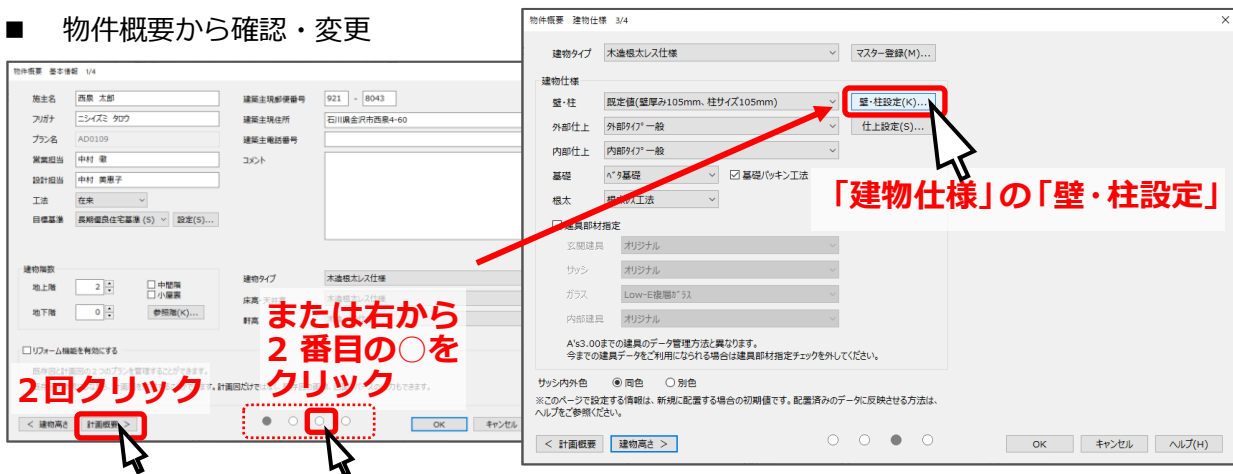
壁の躯体厚、仕上厚、断熱材表現の有無など、設定内容を確認したい。

A. 回答

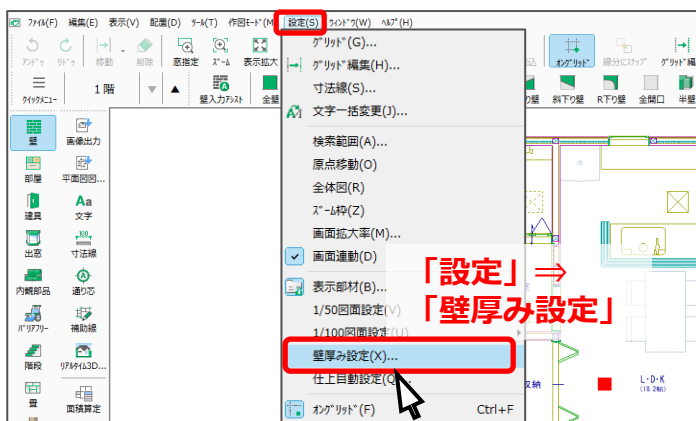
物件を新規作成する場合、壁入力時の躯体厚・仕上げ厚・断熱材の有無などの設定は、 (物件概要) で設定している「壁・柱設定」の「壁」の内容が反映します。

(プラン図) で壁を入力後に、一括で壁の厚みを変更する場合は、 (プラン図) のツールバーにある「設定」⇒「壁厚み設定」をクリックし、表示される「壁・柱設定」の「壁」から変更します。

■ 物件概要から確認・変更



■ プラン図から確認・変更

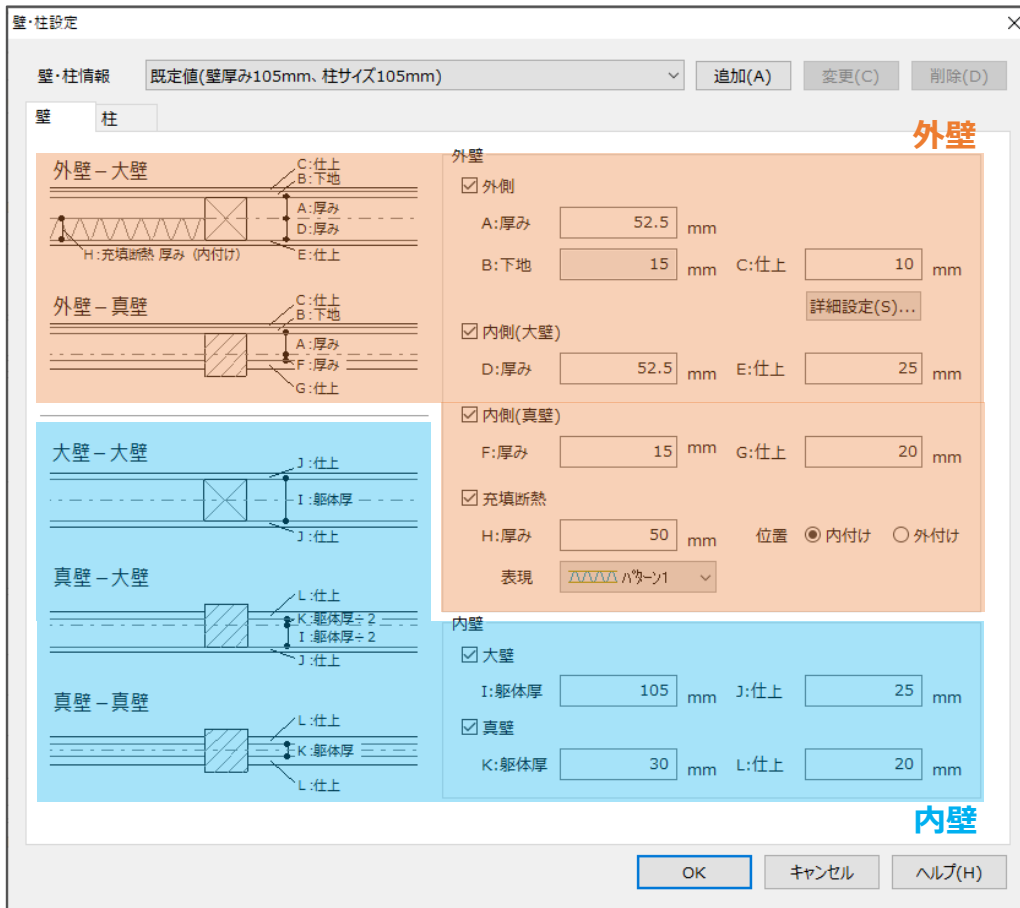


壁・柱設定の「壁」の設定

壁・柱設定の「壁」では、「外壁」「内壁」それぞれの壁の厚みを設定します。

「外壁」は、間取りにおける最外周の壁および中庭を構成する壁、ポーチ壁などの外部壁に対する設定となります。

それ以外の内部の壁に対する設定が「内壁」となります。

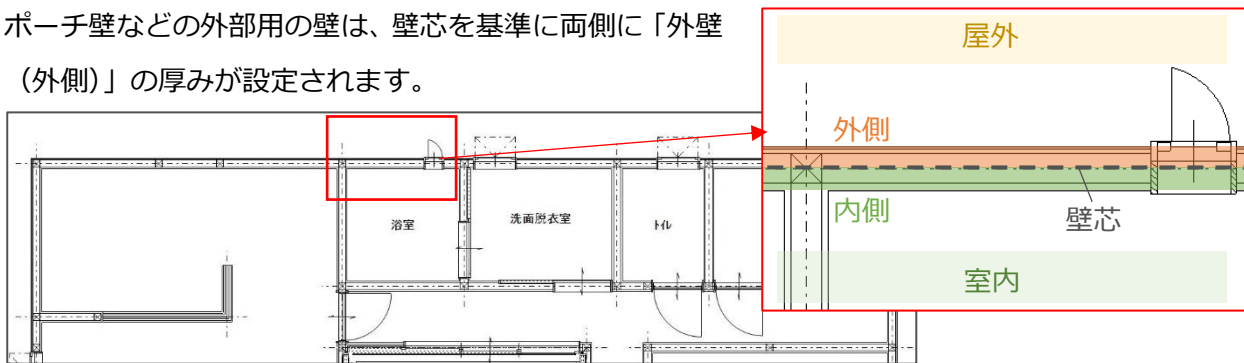


【外壁の設定】

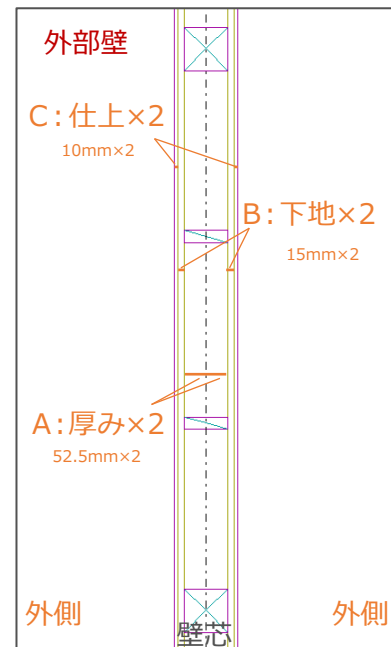
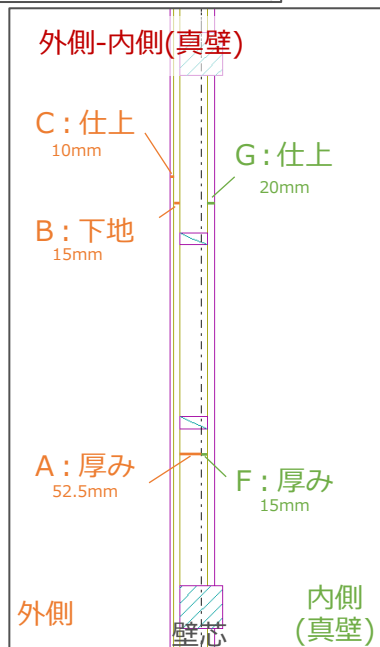
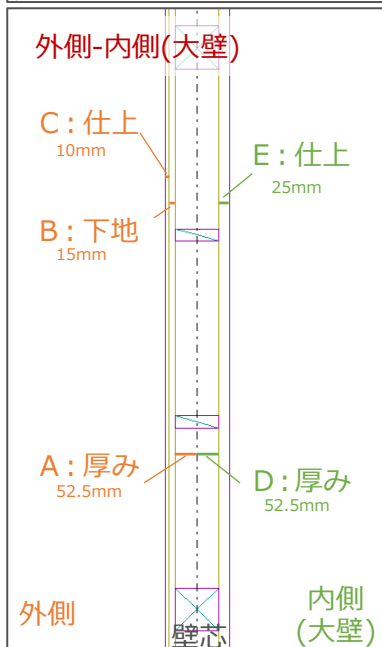
- 外壁の「外側」と「内側」について

外壁の壁芯から屋外側が「外側」、室内側が「内側」となります。

ポーチ壁などの外部用の壁は、壁芯を基準に両側に「外壁（外側）」の厚みが設定されます。



外壁			
<input checked="" type="checkbox"/>	外側		
A: 厚み	52.5	mm	
B: 下地	15	mm	C: 仕上 10 mm
			詳細設定(S)...
<input checked="" type="checkbox"/>	内側(大壁)		
D: 厚み	52.5	mm	E: 仕上 25 mm
<input checked="" type="checkbox"/>	内側(真壁)		
F: 厚み	15	mm	G: 仕上 20 mm



● 「詳細設定」について

詳細設定をクリックすると、外壁詳細設定の画面が表示され、下地の詳細仕様を指定できます。

- ・ 下地 1 から 10 の設定
- ・ 線出力の有無と厚みおよび断熱材表現を指定
 - * 断熱材の表現は 4 種類から選択できます。

外壁詳細設定

下地厚み合計 mm

線出力	下地	厚み	断熱材
<input checked="" type="checkbox"/>	下地1	15	なし
<input type="checkbox"/>	下地2	0	なし
<input type="checkbox"/>	下地3	0	なし
<input type="checkbox"/>	下地4	0	なし
<input type="checkbox"/>	下地5	0	なし

※「線出力」欄にチェックを付けると、平面図に表現することができます。「線出力」欄のチェックを外しても、厚みは有効です。

【参考】線出力について

線出力は「厚みで設定した位置に下地線を表現するか」を設定するもので、厚みに数値がある状態で出力のチェックを外しても、下地の厚みは壁厚に反映します。

下地の厚みを壁厚に反映させない場合は、線出力のチェックを外し、厚みの数値も「0」にしてください。

● 「充填断熱」について

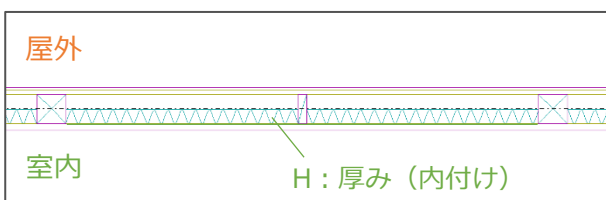
充填断熱は、外壁の躯体内部に表現される断熱材で、厚みと位置を指定して配置できます。断熱材の表現パターンは、下地の設定と同様に 4 種類から選択できます。

充填断熱

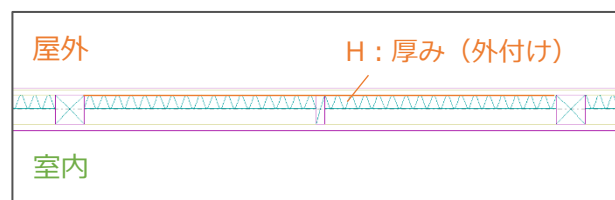
H:厚み mm 位置 内付け 外付け

表現 ▼

内付け：躯体厚の室内側から配置



外付け：躯体厚の屋外側から配置



【内壁の設定】

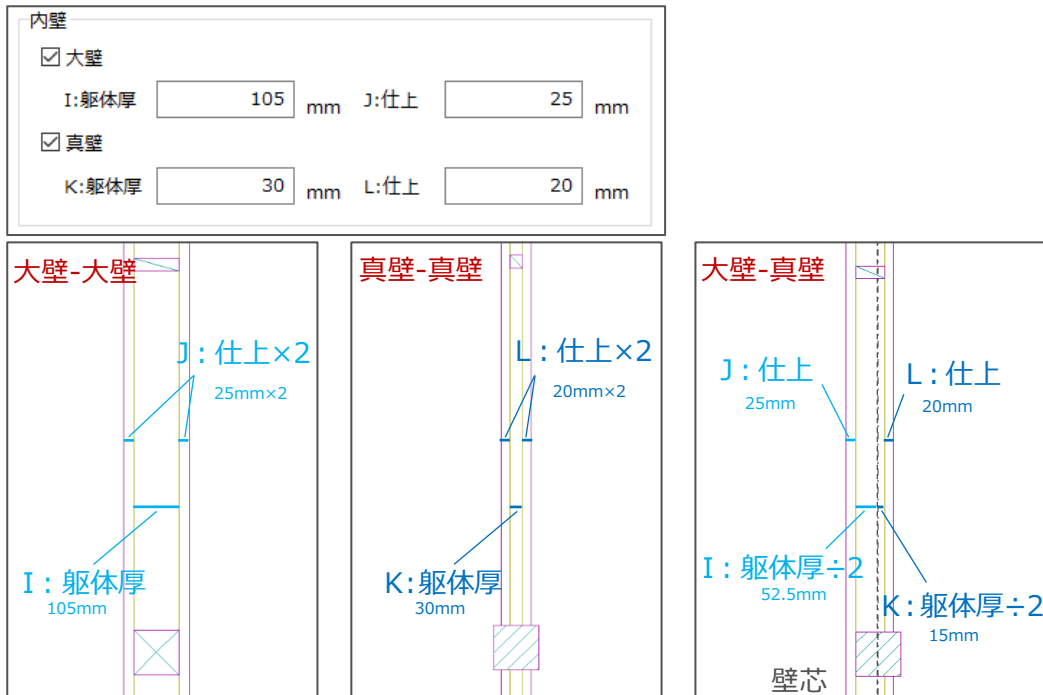
「内壁」は、室内の間仕切りとして配置されている壁に対する設定となります。

● 「大壁」と「真壁」

大壁は、内壁の大壁部分、真壁は、内壁の真壁部分になります。

どちらも、躯体厚と仕上の厚みを指定します。

- * 大壁－真壁の部分は、「大壁」と「真壁」の躯体厚をそれぞれ半分にしたものを壁芯から組み合わせて表現します。



【参考】

任意のサイズに変更した壁厚み設定を、ユーザー登録して別の物件で使用することができます。

詳しい操作手順は、こちらをご覧ください。

[\[1265\] 壁の厚みや柱サイズを登録・変更する方法](#)

[\[1267\] 3D パースや 1/50 平面図で壁の段差を解消する方法](#)